

世界の異常天候とその影響評価 (17)

(Climate Impact Assessment, June, 1985)

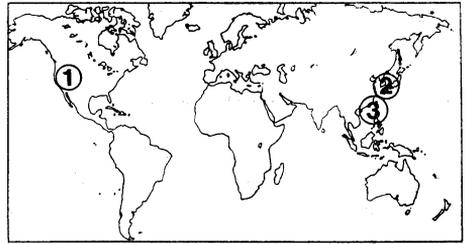
1. 合衆国西部—干ばつ

西海岸とロッキー山脈北部では干ばつのため農作物が被害を受け、火事の危険が高まっている。7月初めまでに、カリフォルニアでは、8万ヘクタール(20万エーカー)以上の地域が火災を受けた。ロサンゼルスでは、1月1日以来の降水量は僅か89mmであり、平年値の42%である。モンタナ州では、1月1日以来の降水量は58mmにしかならず、小麦の3分の2はかなりの育成不良の状態にある。

カナダのプレーリーでも、干天のため農作物が被害を受けた。

2. 韓国・日本—大雨, 洪水

韓国南部と西日本では、梅雨前線による大雨のために洪水が発生した。6月21日～29日に、これらの地域では200mmを越える雨が降り、いくつかの地点では600～700mmの雨が降った。



3. フィリピン・中国—台風

6月21日に、台風 Hal (5号) は、最大風速90ノット(約45m/秒)、最大瞬間風速110ノット(約55m/秒)の強風を伴ってフィリピン北岸をかすめて通過し、24日には中国の南岸を襲った。このためこれらの地域では、強風による被害と洪水が発生した。

ルソン島では、数日後に台風 Irma (6号) の大雨の影響を受け、洪水は広範囲に広がった。マニラの近くの Cubi Point では、月降水量が1,400mmを越えた。

注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している。
(気象変動対策室 真野裕三)

会員へのお知らせ*

山元龍三郎会員より昭和60年4月「国際学術交流に使用する目的」で御寄付戴きましたので報告いたします。

* 本欄は、日本気象学会理事会・常任理事会が会員への周知を図るため、必要と思われる情報を適宜掲載するものです。

(418頁より続く)

と聞きますが、中途半端な⑤がそのような教育現場に貢献することは決してないと信じています。あらゆる人々にとって苟も学会たるものはその時のその学問の発展の最先端であってこそ意味のあるもので、その意味で既存

の枠に捉われない capacity を気象学会は今求められているように思えます。「学会のための学会」となることのないよう念じつつ、役員の方々の日々の御苦心を承知しました上で、奮勇を奮って乱筆を認めさせて頂きました(1985年7月8日記)。